

## 幻の国道

義弟の康則が従業員として働いていた頃、康則と子供達二人を連れ、四人で岩手県宮古方面に、三日間の小旅行に行った。スカイラインバンに、キャンプ用品、食料等を積んで出発した。

宮古は私の思い出の土地である。電波高校を卒業して最初に赴任した船の停泊地の宮古魚港は鍬ヶ崎にある。宮古は三陸国定公園の中心地、風光明媚な浄土ヶ浜がある所だ。釜石大洋漁業に転船していたが、船員は私を除き全員宮古出身なので、航海の合間には釜石から回航して来て休む。しかし、私は下船してから一度も行っていないかった。

最初は私が運転し、国道四号線を北上、水沢から釜石に出ようと、ローカル国道に入る。あの時代、この国道は有名な幻の国道の異名があった。しかし誰かが通っているはずなので大丈夫だろうと、気楽に釜石に向け東進した。車は名高いプリンスのスカイライン、エンジンは快調、風景も素晴らしい。

そのうち走っている道路がおかしい。狭い山道に入った。殆ど道と言えない峠で止めた。車から降りて四方を眺めると、南側一キロ位の下方に、多くの車が広い道路を走っている。やっぱり私達も幻の国道に迷い込んだのだ。

Uターンして途中の農家などで聞きながら、やっと正規の国道に出た。どうしてこんな悪名高い道路を造ったのだろうと文句を云いながら、運転を康則と交代し、釜石に向けてその後は順調に遅れた時間など忘れ、走り続けた。

夕方宮古鍬ヶ崎に無事到着、お世話になった三和の紺野さん、船長の館洞さんにお挨拶し、お土産を差し上げ、浄土ヶ浜のキャンプ地に着いた。